

書評

[評者]

柏原直樹

川崎医科大学腎臓・高血圧
内科教授/同大臨床教育研修
センターセンター長



AKI(急性腎障害)のすべて

基礎から臨床までの最新知見

和田隆志・古市賢吾

B5判 頁220 2012年

定価5,250円(本体5,000円+税5%)

[ISBN978-4-524-26985-3] 南江堂刊

ベッドサイドでの臨床医による緻密な観察と洞察によって新たな疾患・病態が発見され、疾患概念が確立される。AKI(急性腎障害)もその典型例であろう。「急性腎不全」とAKIはどこが異なるのであろうか。刻一刻と病態が変化する重症患者を多く診る医師たちは、きわめて軽微な急性の腎障害がその後の生命予後に大きな影響を与えることを喝破した。「急性腎不全」では遅いのである。AKIは腎臓に加えられた侵襲を最早期の段階で把握し、腎不全への移行を阻止し、生命予後を改善するために生まれた概念である。病理組織や病因論に基づいて理路整然と体系づけられた古典的な疾患概念とは異なり、救命に奔走する医師たちの臨床現場での迫真の議論から生まれたきわめて実践的な病態概念でもある。

AKIは感染症、心疾患、血液疾患、薬剤使用など広範な原因によって、さまざまな診療現場で発生する。したがって、専門性の如何にかかわらずAKIの病態を理解し、予防と治療法を知る必要がある。重症患者を受けもっているレジデント、研修医にとっては、「待ったなし」の事態といえよう。この「今そこにある危機」に対処するために編纂されたのが本書である。その内容の充実は「AKIのすべて」の書名を裏切らない。編纂者を含めて現時点での望みうる最良の執筆陣である。AKIの診療と研究の最前線に身を置く、新進気鋭の臨

床医・研究者が診療・研究の手を休めて、寸暇を惜しんで執筆したのが本書である。

最初に「臨床総論」でAKIの診断、マーカー、発症予測、病期分類、予防、治療法が無駄なくまとめられ、続く「臨床各論」で薬剤、運動後、ICU、敗血症、各種病態などと、AKIに遭遇する臨床現場に即して各論が展開される。そして最後に「基礎」として病態、機序、将来的な新規治療法の展望が記述される。まさしく from bedside to benchside である。

AKI概念はいまだ確立の途上にある。各パートの末尾には「現在の課題」が抽出されており、現時点での確かな部分と、解決を待つ課題が明示されている。記述はきわめて平易であり、無駄がない。読者に予備知識をもつことを求めず、理解が深まるように編纂されている。「AKIのすべて」が220頁にまとめられており、多忙な臨床現場に身を置いていても、数日で読了可能である。まず冒頭から「臨床総論」を通読することを勧めたい。

およそ医師であれば、常時、criticalな状態あるいはその予備状態にある患者を診ているのが通例である。本書をレジデント、研修医、腎臓病専門医だけでなく、多くの医師達に推薦したい。本書の上梓をもって、患者の重症化が未然に阻止され、生命予後の改善に資することを確信している。